みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング

航空記念公園Ⅱ

㉔ フォール大佐の銅像

所沢は日本航空発祥の地として今ではすっかり定着しています。航空記念公園内にはC-46輸送機「天馬」が展示されていますが、そのすぐそばに平成12年に建てられた「航空発祥の地」石碑があります。

フォール大佐の銅像

碑の裏側には、明治44年４月５日に所沢で日本初の飛行場が開設され、そこで徳川好敏陸軍大尉の操縦によるアンリファルマン機の飛行が行われたことが記されています。一般に知られているように、日本で最初に飛行機が飛んだのは代々木練兵場（現代々木公園）です。公式の初飛行は明治43年12月19日でした。ちなみに、代々木公園の南門近くには「日本航空発始の地」記念碑が建てられています。

さて、航空記念公園の西側の一角にはフォール大佐の銅像（胸像）があります。フォール大佐（1869～1924）は、大正８年１月にフランス航空団長として一行とともに来日し、所沢を拠点に各地の飛行場施設等を訪れて、15か月間にわたり日本の航空技術の指導教育にあたった人物です。初飛行以後、国内では各地に飛行場が開設され試験飛行が繰り返されましたが、航空技術やそれを伝える教育体制は立ち遅れていました。フォール大佐の帰国後は所沢に飛行学校が設立されるなど、彼の来日とその指導は日本の航空技術史のうえで忘れることのできない出来事になったのです。

フォール大佐の銅像は、昭和２年に所沢飛行場の飛行学校内に建てられましたが、第二次世界大戦中の金属供出か、戦後の混乱期に紛失したものか、台座だけしか残っていませんでした。その後鋳造を依頼した金沢で原型が見つかったことから、それをもとに復元され、同57年に今の場所に改めて建てられました。

所沢飛行場は日本の航空技術や航空教育の発展に大きく貢献した施設でした。航空記念公園には航空発祥記念館をはじめ、今回と前回紹介した記念碑のほか航空整備兵の像や大正天皇駐れん碑などもあります。園内を散策しながら航空の歴史を回顧してみてはいかがでしょう。

C-46と「航空発祥の地」石碑

▲色鮮やかに咲く福寿草の大群生地。所有者によれば植え付けてから60年以上たっているそうです。
２月下旬／市内三ヶ島地区（投稿写真）

▲毎年恒例の雪割草の展示会。来場者はかれんな花に目を細めたり、カメラを向けたりしていました。
３月３日㈰／吾妻公民館

▲国際交流フォーラム「つながる心が世界を結ぶ」。白熱する議論の中、参加者の笑顔が印象的でした。
３月23日㈯／市役所１階・市民ホール

▲「タオルでぬいぐるみを作ろう！」初めての生涯学習フェスティバル。大人も子どもも楽しめました。
３月16日㈯～17日㈰／生涯学習センターほか

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「飲み食い」▶生きていくために欠かせない行為▶でも度が過ぎるとかえって寿命を縮めるとか…▶飲んだり食べたりに関する話題や思い出、持論をお寄せください▶何より飲み食い大好きな方の武勇伝や暴飲暴食のざんげ話もぜひ▶締め切りは４月16日㈫必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

誰でもエッセイ

テーマ "忘れ物"

忘れないでね

堀之内・加藤　政美

「行ってきまーす」の一言が終わらないうち、私の「忘れ物はない？」。毎日の朝の光景である。

のんびり屋の長女は、朝になってから「今日何々が必要だった」と始まり、しっかり者の妹に「絵の貸してー」となる。同じ私の子どもなのにどうしてなのと思う毎日である。

でも、学校で困る姿を想像するとやっぱり手伝ってしまう自分もいたりする。「それがいけないのよ」と人にも言われる。

でもまあいいか！毎回「ママありがとう、ごめんね」って、優しさと感謝の気持ちの忘れ物はしていないようだから…。

時の忘れ物

松郷・米山　美紗子

主人と知り合い結婚してから早20年近くたちます。子どもも自分の事と毎日の生活に追われて、いつの間にか大切なものを忘れていることに気が付きませんでした。

ある日、昔二人で住んでいた家窪に足を伸ばしてみました。随分と変わってしまっていたけれど、二人で歩いた道、暮らしていたアパートはそのままでした。

懐かしいころに時が止まってしまいました。その遠い昔に、大事な忘れ物を見つけたのです。お互いの思いやり、優しさ。

もう二度となくさないように、そっと心の中にしまって所沢に持ち帰った私でした。

忘れ物で忘れ物

久米・岩崎　ふく子

息子の通学で駅まで送って行くのが日課だった当時。その朝もエンジンをかけ運転席で待つ。かばんを持った息子が見え、後部座席のドアをバターンと閉めた。

走り出して間もなく踏み切り。息子に声をかけた。二度、三度。「返事くらいしなさいよ！」と振り向いた後ろは空っぽ。あっ、息子を忘れちゃった。どこへ!?

慌ててUターンすると向うから苦笑しながら息子が歩いてくる。「忘れ物取りに行ったんだよ。かばんだけ載せて。」

ドアの音だけで走り出した私。バイクを置き忘れ、両手の荷物にフーフーなど、笑いの種をあちこちまきながらもうすぐ私70歳。

この程度は年相応？

並木・横須賀　みどり

最近は、年齢に比例して忘れ物が増えてきている。毎日の買い物もしかりである。

夕食に食べるつもりで買っておいた物を食事が終わるころに思い出す。レンジで温め直した物を出し忘れている。

これって「ほけ」の始まりかと不安になり、子どもに愚痴ると、「普通、普通」。鏡を見たら！」と変な心うに慰めてくれる。

ということは年相応なのかしらと納得しつつ、買い物メモを財布に入れ忘れるなど、あいかわらずの日々を過ごしています。

すなわちそれが現代人

東狭山ヶ丘・川勝　信幸

以前から忘れ物は少ない方だが、それでもスーパーに行き、飼い猫の鰹節は買って、自分の朝食用のパンを買い忘れることはある。

英国のコリン・ウィルソンという作家は、「受け止める情報が多いと忘却する量も多い」と言っているが、電車内などに現金を置き忘れる人は程度を超えている。

しかし、見方を変えると忘れ物をする人は、成熟社会の物離れの進んだ現代人なのだ。こう考える私には、パソコンで備忘録を作る気は起こらない…。

砂糖なしでも…

東狭山ヶ丘・加藤　富美子

小学5年生のとき、林間学校で夕飯を飯ごう炊さんにしました。私の班は、確かにんじんやじゃがいもの煮物だったと思います。

いざ味付けのとき、私が砂糖を忘れたことに気が付きました。他の班はカレーが多かったため、砂糖を余分に持っている人はいませんでした。

すごいショックでがっかりしている私に、担当の先生が「おいしいよ。野菜は本来甘みを持っているから十分食べられる。砂糖なくてもおいしい」と言ってくださいました。

私たちは黙々と食べました。何だかおいしく感じました。

今でも新鮮な野菜を食べると甘みを感じます。そんなとき、先生のあの言葉を思い出します。

花束の理由

中富南・平岡　みち子

子どもたち二人が遅い夜、私が風呂で温まっていると、「ただいま」という長男の声。主人のいる居間で何やらにぎやかな声がしている。どうやら反逆もいっしょらしい。

早く2階に行ってくれないかな、こんなかっこうでは…と考えていると、息子から「お母さん、まだ出ないの？」と声がかかる。どうやら私を待っているらしい。

あわててドアを開けるとチューリップ、かすみ草などの大きな花束。思わず「どうしたの？」と尋ねると、「22本のチューリップもらったんだ」。「誰に？何でもらうの？」と聞くと、息子の友達が指を2本立てて笑っている。

「もう、お父さんもお母さんもひどいよ。今日は僕の22歳の誕生日じゃないか」。

そうなんです。私たち夫婦は同じ言葉を息子に言っていたのです。ごめんね、忘れてて。上手に子離れするからね。

次回のテーマは「飲み食い」です

はつらつ ところ野老っ子

交流を通じて アジアを身近に感じています

石田　昌弘さん
（狭山ヶ丘在住）

去る２月６日、市内で活動するボランティアグループ「アジアに学ぶつむぎの会」が、国際貢献の分野でその功績が顕著であった個人・団体に贈られる「彩の国国際貢献賞」を受賞しました。今回ご紹介する石田昌弘さんは現在、同会の会長を務めています。

会との出会いは10数年前。公民館で率先して活動している先任スタッフの影響が大きかったそうです。

「いつの間にか入会してまして（笑）。実は25年前に青年海外協力隊員としてアフリカのザンビアに出向いた経験がありました。帰国後、国内でも何か国際交流活動ができないかとずっと模索していたんです。」

会では、アジアの国々についての学習を通じて、自らの生活を見直すことを目指してきました。そして、視察や学習会をきっかけに、今回の受賞の対象となったフィリピンやタイへの援助活動が始まりました。

「フィリピンには、教育施策の現状を踏まえて奨学金を送っています。直接現地に行って、子どもたちに会い、有意義な経験ができました。タイには、けし栽培に代わる手工芸プロジェクトに賛同して、成果品を購入することで間接的に支援しています。」

タイの授業風景

購入した手工芸品をバザーで販売して、その収益を奨学金の一部に充てているとのこと。このほか、ユニークな『リコーダープロジェクト』も実施しました。

「日本で使ったまま眠っているリコーダーなどを音楽の教材として役立ててもらえれば、という趣旨で３年間送りました。」

活動の記録やバザーの値札付けなど、会員相互の苦労も多い反面、支援先の子どもたちから手作りのお礼や手紙が届いたときの充足感には代えがたいと語る石田さん。今後については「こうした活動は１、２年で途切れてしまいがちです。継続していくことが大切で、そうありたいというのが私の願い」と話します。

時同じくして、ご自身で支援していたフィリピンの学生から「教師になった」との連絡を受けたそうで、満面の笑みを浮かべて話す石田さんでした。

結婚記念日

下安松・川北　肇

「おい。俺たちの銀婚式っていつころだったのかねえ」「さあ、もう金婚式の方が近いですよ」。

仕事、子育て、両親の介護…。毎日夢中で過ごすうちに、いつの間にか25年の区切りの日は通り過ぎていた。

高齢化の時代、金婚式を迎える夫婦だって珍しくはない。銀婚式なんてことさら騒ぐほどの日ではないのかもしれない。でも…。

妻には苦労をかけっ放しの日々だった。そして何の感謝の気持ちも表してはこなかった。少し心がうずいた。

そうだ。妻は「今更」と言うかもしれない。「いぶし銀よ」と笑うかもしれない。だけど二人だけで「遅れた銀婚式」をやろう。

早速レストランにディナー予約の電話を入れた。

一番大きな忘れ物

北岩岡・河村　文雄

いつ忘れ物をしたことに気づいたのだろう。そして、いつから忘れてしまったのだろうか。

夫婦で海外貧乏旅を楽しむようになって10数年たつが、多分一番初めは北タイの田舎町だったと思う。一生懸命に屋台を手伝う小さな少女。黒く大きな瞳が誇りにあふれていた。そしてインドの人力車を引く少年。ラオスの農村の一家。旅で知り合ったすべての人々が気づかせてくれた。

日本が昔、礼節・道徳を重んじ、他人に優しかったこと。子どもが生き生きとしていたこと。年配者を敬い、父母の仕事を助け、勤勉であったこと…。

大きな、大きな、忘れ物。取り戻せるの？

ご覧ください

テレビ埼玉

●所沢リポート

4月12日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映『市長施政方針』

シティケーブルネット

●広報ところざわ テレビ情報館

4月18日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります ▽直線縫い電動ミシン▽木製サウナ風呂（高さ1・8㍍）▽布団乾燥機▽子ども用マウンテンバイク▽全自動洗濯機▽温風器▽チャイルドカーシート▽ふろ用ベビーチェア▽BSアンテナ▽電子ピアノ▽スチール製事務机▽ライティングデスク▽ハイベッド▽大人用自転車▽アコースティックギター▽子ども用バイオリン（1／16）▽フルート▽ワープロ▽手織り用織り機▽コピー機▽イラスト用パステル▽物置（高さ160㎝）

受付方法 電話による先着順で紹介します。利用者は所沢市民に限ります。

休館日 月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館（☎944-0008）